
真愛 ~ mika&kaito ~

遷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真愛（mika&aito）

【Nコード】

N8406Z

【作者名】

漣

【あらすじ】

今まで愛を知らなかった少女、美夏。

そんな美夏の人生を狂わせる母親。

助けを求められる人はいない。

美夏は、母親と真逆の道を歩むため、勉強もなにかもを頑張っていた。

愛なんていらぬ。愛なんてなくても、大丈夫。そう心に決めた美夏だったが、美夏は1人の少年に愛を求めてしまう。

愛を冷めた目で見る美夏と、美夏に愛を必要とさせる原因海斗の恋

プロローグ

新宮美夏^{しんぐう みか} 16歳。

都立高校に通っている。

だけど、ほとんど学校には行っていない。

イジメを受けているわけじゃない。

ただ単に学校がダルいだけ。

そんな私には帰る家などない。

親もない。

施設に寝泊まりしている。

父親は私が4歳の時に死んだ。

母親は父が死んだ後、半年もしないうちに再婚。

父の生前から付き合っていたらしき愛人と。

2人の会話を聞くと、まだ父が生きていた頃の2人の思い出話をしたりしている。

そんな最低な母の仕事ー！。

それはホステス。

母はまだ10代の頃に私を産んでいる。

16歳で妊娠。

17歳で私を出産。

死んだ父との出会いは母の仕事場。

いわゆる、キャバクラだ。

母は年齢を偽り若い頃から働いていたらしい。

父と結婚した後も一緒に住んだことはなかったらしい。

それはきつと母が仕事帰りに家に男を連れて帰りやすくするためだ。

私はそんな最低な母親をずっと見てきた。

だから、私に愛という感情などない。

だれにも愛されずに育ってきたから。

愛なんていららない。

愛なんてなくても、一生懸命勉強して一生懸命バイトして、

いい大学に行けば、他の人に認めてもらえば、自然に母とは違う真逆の道を歩める。

母のような人にはならない。

そう決めたのは覚えてないくらい前のこと。

だから、学校にはテストの日くらいしかいかない。

出席日数など、テストで免除されている。

オール5の私をどうしてもこの学校にとどめておきたいのだろう。

そんな私の人生を狂わせる人物。

羽柴海斗。

どうして私はこんなやつに、愛を求めてしまったんだろう。

新宮美夏

朝、自分の布団からでる。

私が1番嫌いな季節。

夏。

私は夏生まれ。

だから夏が嫌い。

あの母親の元になんか生まれたくなかったから。

高望みなんかしない。

ただ普通の家庭に生まれたかった。

ただただ普通の家庭に。

そんな普通の家庭に生まれることのできなかつた私はこんなにも不幸。

だから、生まれたくなかつた。

せめて、あの人の娘になりたくなかつた。

今日も学校には行かない。

行く理由がないから。

友達もいない。

家族もいない。

そんな淋しい私がいっつも行く場所。

それは、海。

施設の近くには海がある。

私のただ一つの居場所。

海に来てなにかをするわけじゃない。

ただ眺めるだけ。

それがなんか落ち着く。

だから今日も海に来た。

いつもの位置に座る。

そして、海を眺める。

波がいつたりきたりを繰り返す。

その度に私の耳に波音が響く。

いつもと変わらない風景。

ずっと変わらないで欲しいと思う。

変わってしまったら、唯一の居場所がなくなってしまいそうで。

観光客などめつたにこない、小さな海だから
これからも変わらないという安心感がある。

今日も変わらない平凡な一日が終わる。

夜9時頃施設に戻る。

施設の門限は8時。

いつも私は守らないから、誰も注意しなくなった。

施設の大人は大抵私がいつも海にいることを知っている。

だから、探さないのかもしれない。

それでいい。

誰にも気にされずに、自分だけで生きて行きたい。

誰にも愛されたくないし、愛したくもない。

愛だの恋だのくだらない。

誰にも振り回されたくないから。

明日も海に行こう。

そう決めて布団に入った。

羽柴海斗

その日も私は海に行く。

その習慣は変わらない。

変えられない。

スウェットから私服に着替えると施設を出た。

今日も快晴。

いつもの定位置に座る私。

珍しく今日はヒトがいた。

同じくらいの年の男の子。

海を眺めている。

長めの黒髪が海風になびく。

綺麗で純粹な瞳をしている。

冷めた私と真逆の瞳。

あの人は幸せなんだろうな…

勝手な妄想を膨らませる。

私が妄想をしているとき、私の影と背の高い誰かの影が重なった。
私が顔をあげる。

すると、さっきまで私の妄想の対象になっていた、美少年。
すると、美少年の綺麗な口が動く。

「君、名前は？」

いきなり名前を聞かれる。

海にいるから、たまにナンパには遭うけど、
この人は違う気がする。

ナンパ目当てじゃない気がする。

だから、私は答えた。

「新宮美夏。」

「美夏ちゃん！いい名前だね。俺、羽柴海斗。」

羽柴海斗^{はしばいかいと}

どこかフワフワしたかんじの、いかにも草食系男子って感じた。

「なんか用ですか？」

つい可愛くない反応をしてしまう。

「あつ、ごめんね。用はないんだけど、どこか悲しい瞳をしてたから。」

悲しい瞳。

他人には私の瞳は悲しい瞳として映っているのだろうか。

「…そうでしたか…すみません。」

私に謝る理由はあるのかわからない。

だけど、気分を悪くさせたら申し訳ない。

基本、他人に興味のない私だけど、この人にはなんか私と同じ瞳になってほしくなかった。

我ながら意味の分からない理由だが、私にも良くわからない。

「なにかあったの？」

ドキッ。

なんか全てを見透かされてるようで、びっくりした。

なんかこの人、怖い。

そんな印象を持った。

関わらないと決めた日

「何かあったの？」

そんなことを他人から聞かれたのはいつ以来だろう。

みんな私になんか興味を示さないから。

母親に捨てられたかわいそうなおこ。

それが私の肩書き。

この人も理由なんて話したら、今までの人たちと一緒に、私を避ける。

別に避けられるのは怖くない。

ただ、私の前で困った顔をするのがいやなだけ。

話すとみんな反応に困ったように、顔をしかめる。

で、やがて苦笑いで去ってゆく。

お前から聞いておいて、意味わかんない。

そんな経験しか頭に残ってない。

だから、この人には話さない。

そして、

一切関わらない。

そう決めた。

「どう？話すか話さないか決まった？」

「あなたには話しません。」

「なんでよ？」

「あなたも、いままでの人と一緒だから」

「今までの人？」

質問攻めとか、本当にウザい。

早く帰れよ。

二度とこの場所にくんな。

「じゃ、私帰りますから。」

「待って？」

「まだなんかよろですか？」

「またこの場所に来てもいいかな？」

は？

私の場所だ。

だけど、しつこそうだから、私が別の場所に行けばいいか。

海は広いんだし。

「自由だ。」

くるりと振り返ると、施設には向かわず、図書館に向かった。

まだ帰るには早い。

そう思ったから。

もうあの人には関わらない。

そう決めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8406z/>

真愛 ~ mika&kaito ~

2011年12月29日09時45分発行